「東日本大震災から９年の歳月を経て」

郡山第四中学校長　星　克一

３月１１日は、福島県に住む私たちにとって決して忘れることができない日です。

９年前の平成２３年、２０１１年３月１１日午後２時４６分、これまでに経験したことのない巨大地震が東北地方、東日本を襲いました。そして地震で倒壊した建物や、引き続き発生した大津波に多く方の尊い命が奪われてしまいました。さらに福島県では、東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故で、多くの方々が避難を余儀なくされ、故郷を追われました。昼夜関係なく続いた余震や経験のない放射線被害への恐怖に、日常の生活は完全に奪われてしまいました。

それから９年が経過しました。これまでたいへん多くの方々が、「復旧・復興」を目指し、懸命な努力を続けて今日を迎えています。３月１４日にはこれまで一部で遮断されていた浜通り地方を南北に走る常磐線が、多くの皆さんの願いと努力のおかげで全線が再開通します。また、東京オリンピック聖火リレーがＪビレッジからスタートするなど、復興に向けて歩みを進めていることを様々な形で発信しています。

一方、福島第一原子力発電所の廃炉への過程は依然として厳しく、また、ご家族を失った人々や故郷から離れざるを得なかった人々など、それまでの生活が一変してしまった人々の深い悲しみや無念さは、今後とも決して消えることはありません。

平成２９年と３０年に、福島第一原子力発電所を見学する機会がありました。発電所に向かう途中の街並みは、放射線量が依然として高いために生活できず、地震で自宅が損壊しても手を付けられない状態のままでした。発電所内では、たいへん多くの方が廃炉に向けた様々な作業に懸命に取り組んでいました。改めて原子力発電所事故の影響の大きさ、事故処理の困難さを強く感じました。

「３．１１」を経験した私たちは、この時の経験を決して忘れることなく、震災で経験したことや考えたことを人々に伝えていく必要があります。そして、「家族や友人、故郷をよりいっそう大切に思う気持ち」や「困難な状況にあっても、あきらめず一歩ずつ歩みを進める気持ち」、「人々の温かい気持ちや行為に感謝する気持ち」など、震災を経験して実感した、生きていく上で大切なこれらの「気持ち」をこれからも大切にして、一日一日の生活をこれまで以上に充実させていく思いを新たにしたいと思います。一方、「辛いことや悲しいことに出遭ったときは、身近にいる人や頼れる人に思いを伝え気持ちをわかってもらうこと」も、歩みを進めるエネルギーになると思います。３月１１日を、私たち自身の気持ちや考えを整理し、これからの生き方を見つめる日にしていければと思います。

ここに、震災や震災・原子力発電所事故に関連して亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、たいへんな思いをしながら生活を送られている多くの方々のお気持ちを察し申し上げ、３月１１日午後２時４６分に、黙祷を捧げたいと思います。ご協力お願いいたします。